



# 隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校  
学校だより No18  
文責 芹川博文  
9月12日(金)

## 「正しい理解が 正しい行動へ」 ～ 水俣で学んできた5年生の姿から ～

先週、5年生が水俣の地で学んできました。引率された松尾教頭から、水俣で学習した様子を紹介していただきます。松尾教頭の思いも含め、貴重な学びをした5年生の姿が伝わってきます。

右の写真は、水俣病資料館での様子です。展示されている資料を1つ1つ丁寧に、真剣に見て回る5年生の姿がとても素敵でした。これまで教室で学んできたことを、実際に水俣の地で、肌で感じ、学びを深めたことでしょう。また、語り部さんの講話では、胎児性患者の滝下さんの話を聞きました。生まれながらに不自由な体で、差別を受けながらも家族や友達に支えられ、自立を目指し仲間と活動した体験を語られました。話が終わった後たくさん手が上がり、質問をしました。そんな5年生の姿に、学びの深まりを感じました。



水俣病は遺伝しません。しかし、学習塾で誤った内容の教材が使われていたニュースが流れました。とても残念です。未だに水俣病への正しい理解がなされていなかったと憤りを感じました。水俣病の問題は昔の話ではなく、今もなお続く偏見と差別の問題であると実感しました。

正しい理解が正しい行動へとつながります。深い学びが偏見や差別への怒りにつながります。水俣に学ぶ肥後っ子教室を通して、5年生がさらに成長したと感じました。

## 「かつて自分が支えられたように」 ～ 教育実習生の体験と思いから ～

現在、本校で教育実習生として学んでいる藤川千華さん。教師になろうと思ったきっかけを伺った時、「是非、その内容を学校だよりで紹介したい」と思い、依頼して書いてもらったのが下の文です。本校の卒業生でもある藤川さん。小学生の時の体験や思いが将来の夢へと繋がることや、出会いの奥深さを感じると共に、教育に携わる者の一人として身の引き締まる思いがしました。

私が小学校教諭を目指すようになったきっかけは、小学校4年生の時の出来事と、常に寄り添ってくださった先生との出会いにあります。

私は小学校4年生の頃、友だちとうまくいかずに不安を抱え、学校へ足が向きづらくなってしまった時期があります。そんな時期に当時の担任の先生は、どんな時も一番の味方となり、安心できる言葉をかけ続けてくださいました。そのおかげで私は、学校を「自分を理解してくれる人がいる場所」と思うことができ、少しずつ前を向いて学校に通い続けることができました。この経験を通して私は、学校は勉強する場だけでなく、「安心できる居場所」である必要があると強く感じました。



また、小学校6年生の時の担任の先生は、いつも楽しく分かりやすい授業をしてくださったり、休み時間も一緒に過ごしてくださったりと、授業中も休み時間も笑顔の絶えない安心して過ごせる学級にしてくださいました。

私もそうだったように、学校生活の中では、誰でも友だち関係や学習面などで不安を抱える場面があると思います。そのような時に、子どもが「ここに来れば安心できる」「先生は自分の味方でいてくれる」と思えることは、学校生活を続ける大きな力になると感じています。私はかつて自分が支えられたように、今度は支える側として子どもに寄り添い、安心感を与えられる存在になりたいです。自分自身の経験を原点にしながら、子どもたちの笑顔と成長に寄り添える教員になりたいと強く思っています。